

令和5年9月14日

高根沢町長 加藤 公博 様

高根沢町議会

晨光の会 代表 小林 栄治

令和6年度町政運営に関する政策・予算提言書について

このことについて、「魅力と活力ある地域社会づくり」の実現のために、会派「晨光の会」では、町民の皆様が持つ様々な課題をどのように解決して行くことができるのか、日々調査研究しています。

その観点から、下記の政策を令和6年度予算など町政運営に反映されますよう提言いたします。

記

- ① 人と人とのコミュニケーションや触れ合い、協力、相互扶助は、元気なまちづくりの根幹をなすものと考え、アフターコロナを機に、町主催イベントの開催や学びの場の提供、また各地域で行われている交流活動の支援など、より多くの人に参加したくなるような事業の強化を図るよう努めること。特に学びの場の提供については、次代を担う若者の支援を図られたい。
- ② ロックサイドマーケットを始めとする各種イベントの復活や新イベントの企画、「とちぎの星」に続くプロモーション事業を展開するなど、町の魅力の発信事業の復活・強化をすることにより交流人口の増加、移住定住へと導くことができるような取り組みを図られたい。
- ③ 本町の基幹産業である農業振興と発展に向けて、町は農産物のブランド戦略の見直しを図ることをねらい、イノベーション推進室を立ち上げているが、本町産米の差別化や主要園芸作物について、更なる本町農産物のブランド化を推進するような施策を講じること。生産者、市場関係者、農業団体を交えた対策チームの立ち上げについても検討されたい。

- ④ 少子化対策は、国を挙げての課題であるが、出産・子育て支援策の一つとして、本町が子育て世代をしっかりと応援しているという視点からも、本町独自のシンボリックなネーミングを付してはどうか。

- ⑤ 近年の選挙の投票率は全国的に下がり続けている。これは民主主義の根幹を揺るがすものであり、投票率の低下を防ぐため、学校教育における主権者教育は大切と考える。若年層に対する主権者意識を深めておく観点から、改めて取り組みの配慮を求めたい。